

インド太平洋における欧州連合 (EU) の海軍プレゼンス、その価値とは

はじめに

- 1 プレゼンスの政治
 - 2 過ぎたるか及ばざるか
- おわりに一地域の海洋秩序への貢献



エバ・ペショバ
(ブリュッセル自由大学日本チェア)

はじめに

近年、かつてないほどの欧州の関心と軍艦がインド太平洋地域に集中している。この動きは、海軍力の増強、中国の海洋拡張主義、長期にわたる主権を巡る紛争など、不安定な地域の海洋安全保障環境において貢献したいという欧州連合 (EU) の野心の高まりを反映している。貿易大国である EU は、自由で安全かつ安定した海洋環境の保護と促進に戦略的な関心を持つ。同時に、国際安全保障において更に積極的な役割を果たそうという EU の意思は、その対外行動に見られる「地政学的」転換とも同調している。欧州海軍という1つの海軍が存在しないため、このような関与の作戦部分は各加盟国の海軍が担っている。現在までに、フランス、ドイツ、オランダの3か国がこの任務を遂行した経験を持つ。

EU 加盟国の海軍プレゼンスの範囲と焦点は何であり、これまでどのような効果があったのか。フランス海軍のプレゼンスは、インド太平洋の海洋安全保障において最も重要な特徴であり、今後もプレゼンスを維持し、拡大していく運命にある。ドイツは、2021年にフリゲート艦「バイエルン」を初めて派遣し、2022年には軍用機を派遣し、それまで維持していた国際安全保障上の低姿勢を打ち破り、見出しを飾った。最後に、オランダが英国主導の派遣に加わり、いくつかの重要な軍事演習を行った。2021年の英国主導の空母打撃群 (CSG2021) は、EU の政治的

及び戦略的枠組みの外での活動でありながら、英国の EU 離脱後に同地域でのプレゼンスを強化するという英国の決意を示すものとして際立った¹。EU レベルでは、北西インド洋への調整海洋プレゼンス (CMP) 拡大が、作戦的な認識と拠点を増強する意欲の高まりを反映している。

本稿では、2021年にEUが公式にインド太平洋地域への傾斜を発表したことを踏まえ、フランス、ドイツ、オランダのインド太平洋地域における海軍派遣の根拠と詳細について考察する。地域の戦略的力学への全体的な貢献を評価する前に、中国や米国を含むパートナーの反応を分析する。作戦面での能力や付加価値は限定的であるが、地域海洋におけるEUの「プレゼンス政治」は複数の機能を果たしている。第1に、海洋安全保障環境の悪化に対し高まる懸念と、それが欧州の安定と繁栄に与える直接的な影響を強調している。第2に、特に日本、韓国、インドといった地域におけるEUの「同志の」パートナーに強いメッセージを発信し、拡大する政治的及び安全保障的パートナーシップに作戦面での支援を提供している。第3に、多様なやり方を持つ国際的アクターが増えることは、中国政府の反応を試し、その限界を更に理解する点で役立つ。最後に、EUが国際的な安全保障プレーヤーであるという評判を構築するために、自らのナラティブと努力を実行するという決意を象徴的に示している。

1 プレゼンスの政治

2021年9月に発表された「インド太平洋地域における協力のためのEU戦略」によって、インド太平洋への関与を強化するというEUの野心が明確になった²。この文書は、貿易、連結性、ガバナンス、安全保障と防衛を含むいくつかの重点分野に焦点を当て、同地域に対する包括的なアプローチを公式に示している。海洋安全保障を強化する必要性は、EUがこの地域での、そしてこの地域との二国間及び多国間関与におい

1 本稿の主な関心は、インド太平洋地域の海軍バランスに対するEUの貢献度を検討することであるため、英国の活動は主な焦点ではない。

2 Joint Communication to the European Parliament and the Council: 'The EU Strategy for Cooperation in the Indo-Pacific', 16 September 2021, https://www.eeas.europa.eu/eeas/joint-communication-indo-pacific_en

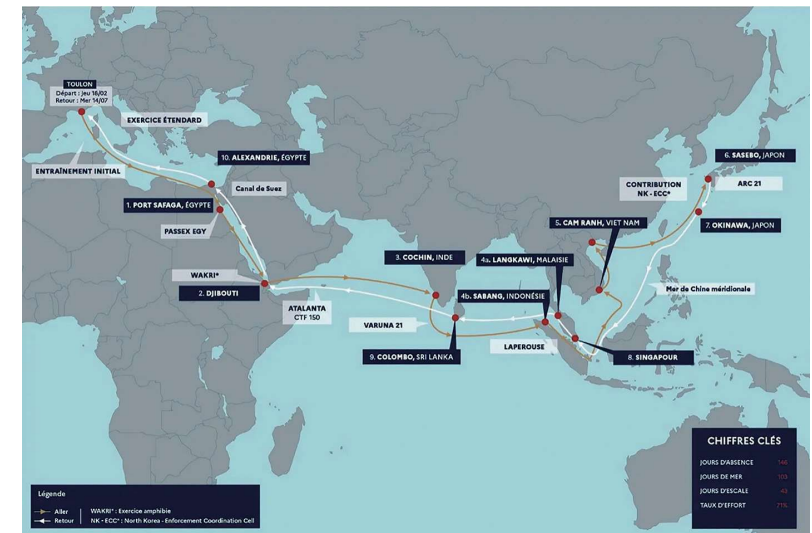
て重要な柱である。当然ながら、自由で安全、かつルールに基づく海洋秩序の促進は、貿易超大国である EU にとって優先事項であり、使用できるあらゆる手段を通じて実施している。航行の自由の保護を含む関与の作戦面は加盟国に委ねられており、加盟国の海軍は EU 全体の利益のために「世界的な勢力範囲、柔軟性、アクセスを提供する戦略的役割を果たす」ことが明確に奨励されている³。フランス、ドイツ、オランダは、それぞれ2019年と2020年に策定した国家戦略を通じて、EUのインド太平洋戦略の特徴と形成に著しい影響を与えたため、これら3か国が最近行った海軍派遣は、EU全体の戦略的フットプリントとの切り離せない関係と意味を持つ。

EU加盟国の中で、フランスはインド太平洋地域に駐留する唯一の国であり、その93%の排他的経済水域、150万人の人口、8千人の軍関係者とアセットがインド太平洋地域に存在する。2019年、フランス政府は、EU加盟国の中で最初にインド太平洋戦略を発表し、自国の戦略的権益と沿う形で、EUのインド太平洋地域への傾斜の舵を取ってきた。そのため、その海軍プレゼンスは圧倒的に大きく、最も影響力を持つ。フランス海軍は、毎年恒例の「ジャンヌ・ダルク・ミッション」(ヘリコプター搭載型水陸両用艦とフリゲート艦で構成される訓練艦隊であるが、完全な作戦実行も可能である)の一環として、もしくはニューカレドニアを母港とする警戒監視フリゲート艦「ヴァンデミエール」やタヒチを母港とするフリゲート艦「プレリアル」を派遣し、少なくとも年に2~3回は(南シナ海を含む)インド太平洋地域を定期的に通過している。2016年にジャン＝イヴ・ルドリアン国防相(当時)が、航行の自由を守るため、この地域における欧州のプレゼンス向上を呼びかけて以来、フランス海軍の派遣は、他のEU加盟国の参加を受け入れたり、調整を行ったりなど、欧州の色彩を鮮明に打ち出している⁴。2025年までに「シャルル・ド・ゴール」空母打撃群を派遣する計画も含め、フランスのインド太平洋地域へのコミッ

トメントは今後さらに高まるであろう⁵。

近年のインド太平洋地域におけるフランスのプレゼンス強化は、同政府が持つ海洋安全保障環境の悪化に対する高まる懸念と、安全保障提供国としての役割を果たすという決意を示している。中でも特筆すべきは、2020年9月に攻撃型原子力潜水艦「エメロード」とオフショア支援船(BSAM)「セヌ」を伴い派遣した「マリアンヌ・ミッション」である。この異例の長期ミッションは8カ月を要し、20年ぶりに南シナ海にも進出した⁶。通常、潜水艦の派遣は目立たないよう行いが、「マリアンヌ・ミッション」はソーシャル・メディアも含めて広く報道され、何よりも海軍外交ツールとしての役割が強調された。

地図1: 2021年「ジャンヌ・ダルク・ミッション」のルート



出典: フランス軍事省

ドイツ海軍フリゲート艦「バイエルン」のインド太平洋派遣が、マスコミの注目を集めた理由がある。フランスと異なり、ドイツは、この地

³ EU Maritime Security Strategy, June 24, 2014, p.10, <https://register.consilium.europa.eu/doc/srv?l=EN&f=ST%2011205%202014%20INIT>

⁴ Valerie Niquet, "France leads Europe's Changing Approach to Asian Security Issues", <https://thediplomat.com/2016/06/france-leads-europes-changing-approach-to-asian-security-issues/>

⁵ <https://www.navalnews.com/naval-news/2022/07/french-navy-aircraft-carrier-mission-pacific-in-2025/>

⁶ <http://www.opex360.com/2021/04/09/le-sna-emeraude-et-le-bsam-seine-ont-terme-leur-mission-dinteret-strategique-dans-lindo-pacifique/>

域に領土を持たず、派遣に適切な外洋海軍も持たない。伝統的に国際安全保障問題への関与に消極的なドイツ政府は、重要な経済パートナーである中国に対して曖昧な政策を維持してきた。2020年11月に発表した「インド太平洋ガイドライン」は、ドイツの外交政策の転換を告げるもので、インド太平洋地域に関する議論の中心である世界的なルールに基づく秩序へのコミットメントが、同ガイドラインの主な動因である。ドイツ海軍の艦船をアジアに派遣する構想は2017年から非公式に持ち上がっていたが、国内の政治的議論が白熱する中、実現までに4年を要した。フリゲート艦「バイエルン」は、「外国港の公式訪問」という中核的メッセージを掲げ、6か月にわたる任務遂行に向け、2021年8月ついに出港した⁷。非常に象徴的で外交的な航海の間、日本、韓国、オーストラリア、米国と演習を行い、南シナ海も含め、商業航路を通過した。現時点で、ドイツ連邦軍はインド太平洋地域への同様のミッションを年に2回実施する計画である。

地図2：2021年ドイツ海軍「バイエルン」のルート



出典：ドイツ連邦軍

2022年8月、ドイツ空軍が、ユーロファイター6機、A330タンカー3機、A400M輸送機4機、250名の空軍兵で構成した大規模派遣部隊を投入し、

⁷ Indo-Pacific deployment 2021, Bundeswehr, <https://www.bundeswehr.de/en/organization/navy/news/indo-pacific-deployment-2021>

オーストラリア主導の多国間演習「ピッチ・ブラック」に参加したことは驚きであったが、作戦的及び政治的に特筆すべき派遣である⁸。「ラピッド・パシフィック2022」は、主要なパートナー、特にオーストラリア、日本、韓国に対し、この地域におけるドイツの長距離迅速派遣と作戦能力について、明確な安心感を与えるための前例のない作戦であった。ドイツ戦闘機が台湾海峡を避け、オーストラリアに向かう際、南シナ海に「ほとんど触れなかった」ことは、中国に「脅しのメッセージ」を送らないという用心であった⁹。

最後に、豊かな海洋の伝統を持つ貿易国オランダは、2020年11月に自国のインド太平洋ガイドラインを採択し、2021年に同地域に海軍を派遣した。インド太平洋地域における貿易、安定、共通利益の重要な決定要因である「航行の自由と国際海洋法に対するオランダのコミットメントの物理的な象徴」として、国内で議論的となる中、フリゲート艦「エヴァーツェン」は、英国空母「クイーン・エリザベス」が率いる英国空母打撃群に参加し、7ヶ月に及ぶミッションを遂行した¹⁰。「CSG21」の一環として、オランダはシンガポール、日本、米海軍と複数の演習を行ったことに加え、南シナ海での「航行の自由作戦」(FONOP)にも参加した。「CSG21」への参加決定は、この地域における法の支配と航行の自由を促進しようとするオランダ政府の「多国間の努力に貢献する意思」を強調することを目的としていた¹¹。今後、同様の海軍派遣を実施することは稀かもしれないが、オランダは、地域の海洋安全保障と船舶の安全確保を促進するという強いコミットメントを表明している欧州諸国のひとつであり、将来的にそのコミットメントは、危機回避、災害救援、能力構築への関与として反映されるかもしれない¹²。

⁸ https://ac.nato.int/archive/2022/DEU_deploy_PB

⁹ <https://www.dw.com/en/germany-sends-fighter-jets-to-indo-pacific-training-mission/a-62815572>

¹⁰ Press release: Dutch frigate EVERTSEN's visit to Singapore, 11 October 2021, <https://www.netherlandsandyou.nl/latest-news/news/2021/10/08/hnmls-evertsen-to-arrive-in-singapore>

¹¹ Ibid.

¹² Maaike Okano-Heijmans, "Netherlands and Indo-Pacific: inclusive, but not value-neutral", Clingendael, 31 August 2021, <https://www.clingendael.org/publication/netherlands-and-indo-pacific-inclusive-not-value-neutral>